

日本福祉大学

松本オフィス通信

ハイライト：

加藤学長 ワークショップに参加	1
茅野市美術館 公募写真展開催	4
大学説明会開催の お知らせ	4
受験対策講座開講の お知らせ	4

目次：

加藤学長 ワークショップに参加	1
平成21年度 新学期スタート	1
高校訪問 明科高校・須坂商業高校	2
松本オフィス ホームページ開設	2
実習指導センター	2
セルブの活動 四賀アイ・アイ	3
現場からの声	3
高遠の街づくり支援 高遠まん頭のお店から	3
「無伴奏」ギャラリー 畦地版画を寄贈	3
茅野市美術館 公募写真展のお知らせ	4
インフォメーション	4

写真を通じた福祉文化の創造を
～ 加藤学長が茅野市美術館ワークショップに参加 ～



4月5日、茅野市美術館の公募写真展「寿齢讃歌Ⅳ」の第1回ワークショップが、同館で開催され、写真家の木之下晃さんが身近なお年寄りの方たちの姿を記録に残そう、お年寄りの元氣につながるようにカメラを向けよう、と語りかけました。

この写真展は今回で4回目。毎年参加者が増えていきます。日本福祉大学は、今年から写真展への「協賛」を決めました。

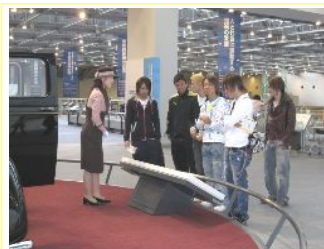
加藤学長の任期は本年4月から。1日の入学式が最初の学内行事で、美術館ワークショップは対外的な最初の公式行事となりました。

福祉文化の創造は大学にとっても大切な課題で、「高齢者問題」では、困難を抱えた形への手厚い支援とともに、多数の元氣なお年寄りの

方たちの知恵と力も活かしていくことがとても大事な、と発言。学生や高校生など若い世代への期待を述べました。

木之下さんは昨年の作品を壇上でいねいに紹介し、作品を解説しながら、コンテンツ形式ではない、この企画の独自の意義を強調し、若い世代の参加を呼びかけられました。

平成21年度・新学期スタート



経済学部の産業技術記念館見学

翌日からは、各学部ごとに学習ガイダンスなど、オリエンテーションが始まり、経済学部、福祉経営学部、健康科学部、子ども発達学部、国際福祉開発学部では、合宿形式の新入生セミナーが実施されました。経済学部では名古屋市内の産業技術記念館を訪問し、夜は上級生による「フィールドワークショップ大会」、福祉経営では「新入生フリーペーパー作りコンテスト」、その他、障害者スポーツ種目を取り入れたスポーツ大会、ゼミ対抗バレーボール戦など学部毎のユニークな取り組みが行われ、中でも、各学部とも上級生の積極的なサポートが注目されました。

日本福祉大学は、本年度、通学課程6学部で1,290名余、通信教育部では正課生2,500名余の新入生を全国44都道府県から受け入れました。

長野県からは40余校、98名の入学者があり、1日の入学式の後には、学内で活躍する各地の学生県人会の集いが行われ、長野県人会では上級生も参加した交流会が開かれ、ふるさとの話題で盛り上がりま



子ども発達学部・紙芝居実演

あなたの街の高校訪問！

明科高校

流木で癒しの空間を作るプロジェクト

明科高校では、長野県学校科学教育奨励金を受けて「癒しの中庭プロジェクト」に取り組んでいます。

梓川のダムに浮かぶ流木を使って、看板やテーブル、さまざまなオブジェが製作され、校内に



ダックスフント



マンモス



憩う人



カモシカ

さ、楽しさを発見させたい」、「生徒たちの作品から、芸術は人を愛する力があることを学んだ」という言葉が、作品を通して、私たちの胸にも響いて来ます。

展示されています。中庭には、カモシカやマンモス、ダックスフント（写真）が飾っており、人形「憩う人」（写真）が安らぎの空間を主宰しています。このほか美術室には、美術の授業で制作した明科版の「村の家」があり、世界の村が集まっているようです。担当した美術の江原先生の「つくろ面白

須坂まががきUSIOP「まががき」

須坂商業高校では、昭和5年に第1回販売実習を行って以来、2008年度まで実に69回にわたって「須坂マーケット」が開かれてきました。昨年のマーケットでは来場者が4,700名にのぼったほどです。「くますぎ」は、須坂市の商工会議所から地域活性化への支援を求められたことが



きっかけとなり、市街地での販売活動として取り組まれるようになったものです。

販売されるのは、全国の農業高校や水産高校などで生産・加工された商品。市場にあまり顔を出さないような珍しい商品が多いのが特徴です。富山の高校からさんまの昆布巻、いかの燻製、いかめしなどが仕入れられます。これらの商品は、生徒達が独自に交渉して仕入れていきます。

「くますぎ」は須坂市の市木。地域に根ざして大きく成長しようという願いが込められています。



(写真・くますぎのプロジェクト)

須坂商業高校

松本オフィス・ホームページ公開！

日本の大学で一番大きな実習運営組織です

、20数名の教職員が、年間1,300名近い実習学生を支援し、1,800におよぶ実習施設・公的機関と連絡を取りながら実習の充実に向けて活動しています。昨年の場合、実習を行わなかった県は2県だけだったとか。北海道から沖縄まで、センターと一体となって、事前指導から各地の現場実習指導を担当する講師も200名を数えます。



通信教育部を含め、大学全体の社会福祉士、精神保健福祉士の実習教育を運営しているところが、日本福祉大学の実習教育センター。12号館の3階にあります。センター長の柿本社会福祉学部教授以下

松本オフィスでは、松本オフィス独自のホームページを開設。
(<http://www.n-fukushi.ac.jp/block/natsumoto/index.html>)
日本福祉大学のホームページ (<http://www.n-fukushi.ac.jp/>)の「キャンパス&地域オフィス」にある、松本オフィスのページにもリンクが張られている。

高校生向けの入学説明会や資格対策講座、地域や同窓会の情報等、長野県に密着したサイトになっている。日本福祉大学と松本オフィスを知らりたい方、今すぐアクセスを！



福祉の現場から...

四賀アイ・アイ

松本市旧四賀村に福寿草が咲く頃、知的障害者更生施設「四賀アイ・アイ」を訪問しました。入所・通所あわせて利用者の方は59人と、利用者の生活を支える職員が40名余という規模の知的障害者施設です。



四賀アイ・アイの活動について、生活支援部長の赤羽さんにお話を伺いました。この施設の開所時に施設長を引き受けられたのが中学の美術の先生であったこともあって、利用者に障害者アートを通して充実した生活を送って欲しいという思いで、絵画だけでなく、陶芸や劇などにも積極的に取り組んでこられた歴史があります。現在も芸術活動を続けられていて、廊下などに利用者の方の作品が展示され、見学者の心を打ちます。



生活支援部長の赤羽さん(右)

施設の入り口近くには利用者や職員が働く「喫茶店」があります。ここでは、パンやカレー、餃子などを作っていて、ランチタイムはご近所の方もみえるとか。またパンは訪問販売も行われ、一〇〇円均一。



(利用者の方の作品)

味、価格、ボリュームで満点の出来です。このような活動を通して、四賀アイ・アイは地域貢献を行っています。

現場からの声 ～卒業生の今～

伊那市社会福祉協議会 伊藤直哉

私は21世紀の始まった年に大学を卒業した。長野に帰るつもりはさらさらなかったが、3年生のときに実習を行った施設から「一人空きが出るからこないか」と誘われるままに松本で働くことになった。

共同作業所から知的障害者通所授産施設としてスタートして間もなかったその施設は、利用者も職員も若く元気に満ち溢れていた。社会人として初めて働いた施設。まだまだ自分にはもった仕事ができるはずだと、うぬぼれた思いから3年でその施設を辞め、社会福祉協議会へと転職した。

今は社協で福祉活動専門員として働いているが、「社協って何をしているところ?」と聞かれれば困ってしまう。「社協とは一言で言うのであれば、「住民と一緒に汗をかきながら地域福祉の推進を行うところである」と全社協の前部長さんが言った言葉であるが、「地域福祉って何?」と聞かれれば、これもまた困ってしまう。では、これをどう考えるか。

松本で一人暮らしをしていたときには、アパート住まいであったが、隣の人の顔すら知らなかったし、玄関先であいさつをしても返事すらなかった。これはいかん。困っている人を見かけたら助けてあげるよ。逆に困ったときには助けてね。そんな関係づくりが「地域福祉の推進」ということであろう。

こんなことを地域住民の皆さんと一緒に考えて考えながら、社協の基本目標である「ふれあい、助け合い、助け合、お互い様」の地域づくりの推進を行っている、社会人9年目の春がやってきた。



伊藤さん(社協にて)

高遠の街づくり支援

経済学部・加茂ゼミでは、今年度、伊那市と合併した旧高遠町を事例として「平成の大合併」の検証と今後の街づくりを考える調査活動を進めようとしています。同町で四代にわたって「高遠筆まん頭」を作ってきた平沢優司さんは、「合併は、終わりではなくスタート。花見シーズンだけではない観光事業の年間活動など、住民がいっそつ主人公になって活動しなければ」と語っています。地域の活動と大学・学生の取り組みが結ばれるとき、新たな可能性が生まれます。

「無伴奏」 松本オフィスに畦地版画を寄贈

松本市内でも歴史のある商店街の1つとして名高い中町通り。その一角に、版画やリトグラフを主に扱っておられる『無伴奏』という画廊があります。主催の西沢雅子さんからのこの度、松本オフィスの開設を記念して、山の版画家として名高い畦地梅太郎(あせちうめたろう)さんの版画作品「圏谷に憩う」が寄贈されました。



画廊を主催している西沢雅子さん

実兄が福祉大の教員であったこと、ご自身も戦後最初にできた社会事業専門学校の二期生として、仙台の日赤病院等で相談援助業務を経験してきたことから、日本福祉大学の松本での活動に期待しているとして寄贈されたものです。寄贈された作品は1958年に製作されたもの。後期には、山男、鳥など、デフォルメと大胆な輪郭で広く知られるようになった画風も、この時期は過渡期。表現に工夫を凝らした、若き版画家の貴重な作品です。

茅野市美術館 木之下晃ワークショップ 寿齢讃歌Ⅳ - 人生のマエストロ - 公募写真展

寿齢讃歌のこの企画は、今年で4回目を迎えます。この写真展は賞を与えるコンテストではなく、人生が写し出される高齢者の表情を大切に記録し、未来への遺産にしていくことを目的としています。

日本福祉大学は、この企画に協賛し、支援いたします。これを機会に、高校生が高齢者との結びつきをより深め、人生の先輩から多くを学んでくれることを期待しています。

応募作品は、写真家・木之下晃氏の講評を経てモノクロデジタルプリントし、茅野市美術館内に展示します。また参加者の方々には、公募作品を掲載した作品集を差し上げることにしています。この機会に、身近な被写体にカメラを向けてみるのはいかがでしょうか。



木之下 晃 氏

【募集要項】

◆テーマ

人生を積み重ねた高齢者の奥深い表情を撮影する。被写体はおおむね八十歳以上の方々。

◆応募資格

年齢、性別、国籍、プロ・アマを問わない。

◆参加費

一般・成人 1人1作品の場合、2000円。

高校生以下 1人1作品の場合、1500円。

※作品1枚増すごとにプラス500円。

応募枚数は1人2枚まで。

◆応募期間

2009年 4月1日(水)～5月31日(日)

◆応募方法

茅野市民館事務室窓口にて参加費をお支払いいただき、作品を提出してください。窓口へ直接提出できない場合は、作品を厚紙に挟むなどして折れないように送付してください。参加費は、左記の郵便振替口座に入金してください。(要手数料)

□口座番号 005500538172

加入社名・株式会社地域文化創造

※詳しくは、茅野市美術館までお問い合わせください。

【茅野市美術館】 茅野市仲町1番22号(茅野市民館内)

電話 : 0266-84-8822

FAX : 0266-84-8223

HP : <http://www2.chinoshi.net/shiminkan/museum/>

■プロフィール

木之下 晃 (Akira Kinoshita)

長野県諏訪市に生まれる。諏訪清陵高校卒業後、日本福祉大学で学ぶ。中日新聞社、博報堂を経て、フリーの写真家となり、音楽関係の写真を専門に国内外で活躍。日本福祉大学客員教授。

インフォメーション

【大学説明会の1案内】

・日程

2009年4月～6月
(4月11日～隔週土曜日)

・場所

日本福祉大学松本オフィス

・内容

大学入学希望者に、個別に大学案内を行います。個別相談を希望される方は事前に松本オフィスまでお電話で都合のいい日程をお知らせください。

オープンキャンパスのお知らせ

春のオープンキャンパスを開催します。受験大学を決める前に「知りたいこと」「聞きたいこと」にお応えします!

・日時

5月9日(土) 美浜キャンパス

5月10日(日) 半田キャンパス

(両日とも10時45分～16時)

※詳しくは大学の入学広報課まで

電話: 0569・87・2212

【受験対策講座の1案内】

2009年度は左記の講座を開設します。

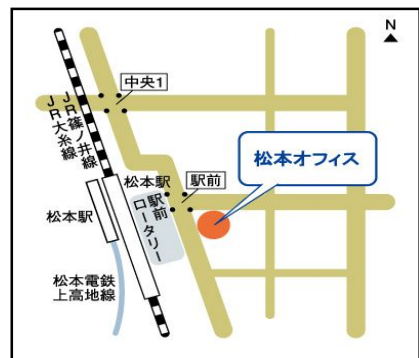
◆ケアマネージャ受験対策講座

・日程 7月15日～10月14日

・場所 松本市 なんなん広場

・受講料 講座1回 1250円(全12回) テキスト代別

・申し込み期間 5月11日～6月30日



日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-2-1 ミヤノオビル5階

電話 (0263) 31-9011/FAX (0263) 32-8018

URL <http://www.n-fukushi.ac.jp/block/matsumoto/index.html>